

# PEP TALK!



## 通信 Vol.14

今日はビジネスではなく教育の視点から【選手の指導に体罰は必要なのか?】についてお話しします。みなさんの中にも学校に通うお子様がいらっしゃる方もいると思います。最近、強豪チームの部活などの現場で体罰が行われていて処分を受けたというニュースを目にすることが度々あります。体罰をする指導者のほとんどは「選手の為を思って」「選手の成長を促すため」などの言葉を口にされますが、体罰は本当に選手の為に必要なものなのでしょうか?

結論からいうと私達日本ペップトーク普及協会では体罰は全く必要ないという立場です。私達は選手の成長を促すことや選手のやる気を引き出すのは、指導者の言葉の力や態度でできると考えています。その証明が脳科学者で医学博士である岩崎一郎氏の著書「何をやっても続かないのは脳がダメな自分を記憶しているからだ」(クロスメディア・パブリッシング発行)に書かれています。

この中でいわゆる『「アメとムチ」の指導』と『UCLAバスケットボールの伝説的名コーチ ジョン・ウッデン氏の指導方法「アメとアメ無し」の指導』を比較した検証結果が記されています。「アメとムチ」ではうまくできたら褒める失敗したり、上手くいかなかった時には罵声を浴びせたり、グラウンドを走らせるという罰を与えるという方法。一方「アメとアメ無し」ではうまくできたら「よし!」「素晴らしい!」などの声を即座にかけるようにする。そして失敗したり、上手くいかなかった時には叱るのではなくプレーを止めてやり直しをさせたり、どうしたらミス直せるのかを指導したそうです。

結果は「アメとムチ」より「アメとアメ無し」の方が10倍ほど上達速度が上がったのです。このように言葉の使い方によって選手を上達に導くことができますし褒められることや上手くできることで選手のモチベーションも上がります。指導者の皆さんは技術面やフィジカルの指導をするにあたり相当な勉強をし、努力をされていることと思います。そして選手に上手くなってほしい成長してほしいと思われている気持ちを自分の事のように持っておられる。特に部活に関わる先生方は、通常の業務に加え朝早くから夜遅くまでの練習。休日返上の遠征試合などその熱心さや生徒を想う気持ちには本当に頭が下がります。そんな生徒、子供想いの指導者だからこそ本当に生徒、子供にとって良い指導を知っていたらと思うのです。

指導者の皆様には選手を想う熱い気持ちでもって技術指導のスキルと同じように言葉の使い方のスキルを是非上げていただきたいのです。

「怒鳴って子供を言いなりにする指導」から「子供に質問を投げかけ、自ら考えさせ結論を出させる指導」へ。時代の変化が激しい世の中で、大人の言われた通り、先輩の言われた通りに動くだけでは幸せな人生は送れないでしょう。自分で考えて動く人を育てる。子供も大人も育成方法は同じだと思っています。指導的な立場にある人は答えを教えるのではなく、相手に考えさせて結論を導く手伝いをする。そんな指導をしていきたいですね。